

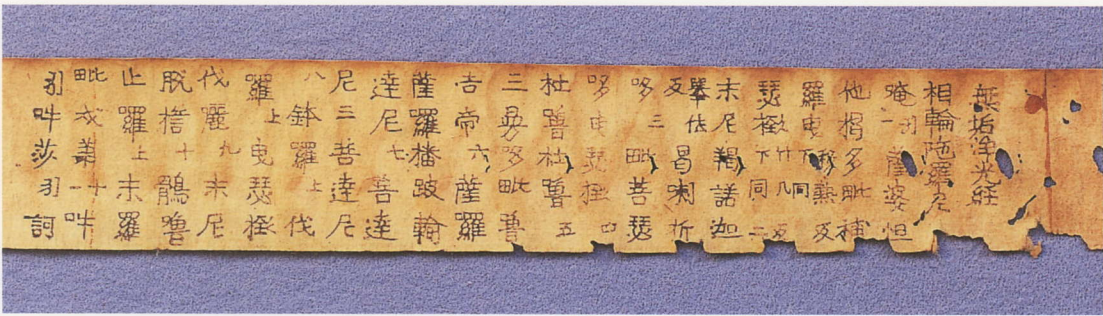
百万塔陀羅尼

(無垢浄光経 相輪陀羅尼) 764年 法隆寺旧蔵

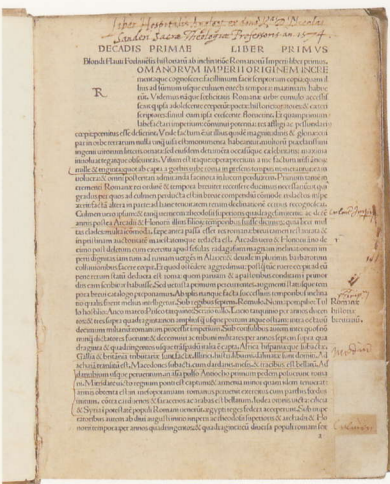


百万塔陀羅尼は世界最古の印刷物として知られ、大和法隆寺に伝わったものである。764年(天平宝字8年9月)、恵美押勝の乱が平定されたとき、称徳天皇の勅願により三重の小木塔百万基を作り、根本・相輪・自心印・六度の陀羅尼を印刷し、その一種をおさめ、これを奈良の十大寺に10万基ずつ分置したが、大部分は失われ、現在では法隆寺に伝存するのみである。法隆寺に伝わるものは現在なお数多く残されているが、原形に近いものはおよそ300基(内100基は重文指定)しか残存していない。

図書館情報センター所蔵の百万塔陀羅尼は、明治41年に法隆寺から寺門維持金基金者に記念として放出された最上級品百基の内の一基である。(足立祐輔)



図書館情報センター所蔵 貴重資料の紹介(1)



ピオンド「ローマ千年史」 初版 1483年 ベニス刊

本書は古代ローマ帝国が衰えていく410年から1441年秋までの約1000年間を記述したイタリア通史の先駆的な著作である。ピオンド(1388-1463)はローマ教皇の秘書官として勤めた先駆的な人文学者であった。古代ローマの衰亡を研究した最初の歴史家と言われている。本書の最初のページには、16世紀になされた書き込みがあり、カトリック神学者で歴史家のニコラ・サンダース(1530-1581)の寄贈書である旨が記されている。^{*}インクynaブラとして貴重な資料である。(足立祐輔)

^{*}インクynaブラという言葉はラテン語incunabulumの複数形incunabulaで、「揺りかご」という意味から転じて「出生地」「初め」を意味します。本の世界では、金属活字により印刷され、印刷年が1500年以前のもをインクynaブラと呼んでいます。1500年という区切りは世紀の変わり目という便宜的なもので、1501年から本の姿ががらりと変わったわけではありません。本の姿の変わり目は1530年頃にあるともいわれています。金属活字による印刷術を発明したとされるのはヨハン・グーテンベルグ(c.1400-1468)で、1640年には印刷術発明200年祭が行われました。この時初めてインクynaブラという言葉が使われたようです。

(国立国会図書館インクynaブラ西洋印刷技術の黎明より引用)